

CSRの取り組み

東京スター銀行は、企業としての社会的責任を果たし、社会・お客さまとともに発展していくため、社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。そして、これらの活動を実施する際の指針となる基本方針として、「社会への貢献」「次世代を担う人材の育成」「ダイバーシティの推進と働きやすい職場環境の提供」の3項目を掲げています。



ESG/ SDGsマップ

東京スター銀行は、持続可能な社会の実現に向けて積極的に取り組んでいます。

Environment (環境) 	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に 具体的な対策を	環境に配慮した取り組み	P.9
	14 海の豊かさを 守ろう	15 陸の豊かさも 守ろう			
Social (社会) 	17 パートナリシップで 目標を達成しよう			地域金融機関との連携	P.5
	8 働きがいも 経済成長も	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう		中小企業の経営の改善および地域の活性化のための 取り組みの状況	P.7
	3 すべての人に 健康と福祉を	11 住み続けられる まちづくりを		行員参加による社会貢献活動	P.9
				すべてのお客さまに「満足」いただける銀行を目指して	P.9
				自然災害からの復興に向けた支援と寄付活動	P.9
	1 貧困を なくそう	2 飢餓を ゼロに	4 質の高い教育を みんなに	子ども向け金融教育の実施	P.10
Governance (ガバナンス) 	10 人や国の不平等 をなくそう	16 平和と公正を すべての人に		貧困や虐待など困難な状況におかれている 子どもへの支援	P.10
	5 ジェンダー平等を 実現しよう	16 平和と公正を すべての人に		女性の活躍推進、次世代育成支援に関する行動計画策定	P.11
				ダイバーシティ&インクルージョン座談会	P.11
				当行のコーポレートガバナンス	P.16
				コンプライアンス体制	P.17
				リスク管理体制	P.18



※[SDGs]: Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略称。2015年9月に国連サミットにおいて採択され、国連に加盟する193カ国すべての国がその目標達成に向けた取り組みを行うことが決定している。2030年までの15年間で、あらゆる形態の貧困に終止符を打ち、不平等と闘い、気候変動に対処しながら、誰も置き去りにしないことを確保するための取り組みとして、17の目標と169のターゲットから構成されている。



社会への貢献

当行は、行員や行員の家族に、ボランティア活動などの社会貢献活動に参加する機会を提供し続けることにより、自ら考え、より自発的に仕事に取り組む姿勢を持った人材の育成や働き甲斐のある社風を醸成することで、社会とともに発展することを目指しています。

● 環境に配慮した取り組み

環境問題への意識が高まる中、企業に対しても持続可能な社会の形成に向けた取り組みが、近年ますます求められるようになってきています。当行は、電力使用量削減のための積極的な消灯空調Off促進、紙使用量の見える化によるペーパーレスの意識付け、クールビズなどの取り組みを継続的に行っています。環境保護意識の高い会社を目指し、2018年6月には全行にリサイクルペーパーを完全導入し、10月には全行員を対象とした環境問題の経済への影響や国際社会・日本の動向など環境問題を学ぶe-Learningを行いました。当行の再生可能エネルギー分野への融資や、クールビズ、ペーパーレス等の環境に配慮した取り組みが、社会への貢献に繋がっていることを知る機会となりました。

● 行員参加による社会貢献活動

当行は、行員が積極的にボランティア活動など社会貢献活動に参加する機会を提供し、環境、動物愛護、子ども支援などさまざまな観点から地域へ貢献しています。

2018年は、気軽に参加できる支援をテーマに活動を行いました。行員の自宅にある本・DVD762点、不要になった携帯電話機器やパソコン115台を集め、子ども支援を行う基金やNPO団体に換金額を寄付しました。また、高齢者に暑中見舞い葉書を書く活動や2014年から続けている行員およびその家族による東京都内荒川河川敷での清掃、犬猫の保護活動を行うNPOで施設の清掃等を行うボランティアを実施しました。



● すべてのお客さまに「満足」いただける銀行を目指して

当行は、ご高齢のお客さまや障がいのあるお客さまをはじめ、すべてのお客さまに「満足」いただける銀行を目指して、さまざまな取り組みを行っています。ハード面の充実を図るだけでなく、全店にサービス介助士資格保有行員を在籍させるなど、お客さまのご要望にお応えしやすい体制を整えています。

6月には、頭取の佐藤が1日車いすで執務を行いハンディキャップのある方々がどのような生活をされているのかを体験しました。ほかにも全執行役と部長以上を対象とするサービス介助セミナーを実施し、行員が幅広い接客サービスを習得しています。



● 自然災害からの復興に向けた支援と寄付活動

各地での大規模自然災害により被害を受けられた皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。当行は、被災地の一日も早い復旧・復興を願い、自然災害等で被害に遭われた方々への寄付などを行っています。

被災地への義捐金寄付について

被害に遭われた地域の1日も早い復興を願い、CTBCグループとして平成30年大阪府北部地震に500万円、平成30年7月豪雨災害に1,000万円、平成30年北海道胆振東部地震災害へは当行から300万円の義捐金を寄付しました。

次世代を担う人材の育成

当行は、未来の社会がより豊かなものとなることを目指して、次世代を担う若者や子どもが、将来、希望を持って自立した生活を送ることができるよう、金融教育や、貧困や虐待などの社会課題に関する啓発活動を行っています。

● 子ども向け金融教育の実施

当行は、子どもがお金を正しく使うことの大切さなどを楽しく学ぶことができる機会を提供することで、日本人の金融リテラシーの向上を目指しています。

当行では、貧困家庭の支援をしているNPOや発達障がい児支援施設などと連携して、困難な状況にある子ども向けに金融教育「お金のスタートレーニング」を実施しています。また、2018年5月からは、当行の店舗においても、地域の親子を対象とした「お金のスタートレーニング」の実施を開始しました。

2018年は、27講座536名の親子に参加いただき、子ども向け金融教育を通じて、地域の方々との交流を深めました。
(2018年11月末現在)



「KIDS DAY 2018」の開催

未来を担う子どもたちへの金融教育を提供することのみならず、行員のワークライフバランスに対する理解および社内コミュニケーション促進を目的として、行員の子どもの対象とし、「KIDS DAY 2018」を開催しました。小学生を中心とした子どもが、銀行の職場見学、頭取の佐藤や専務の高らとの名刺交換、ライフイベントを体感できるボードゲームの作成などを通じ、社会における銀行の役割について学びました。

● 貧困や虐待など困難な状況におかれている子どもへの支援

日本で増加していると言われる子どもの貧困や虐待などの課題の解決に注力し、行員やお客さまとともに、子どもの社会課題を解決していくことを目指しています。

児童養護施設の子どもに対して、施設の設備やその特性上経験することが難しい、パソコン講習会・料理教室を継続的に開催しています。これらの活動は、施設から独り立ちするために必要なスキルを学ぶ機会となっているだけでなく、ソーシャルスキルや職業観・ロールモデルを知る機会にもなっています。



ダイバーシティの推進と働きやすい職場環境の提供

当行では、「ダイバーシティ推進は成長の源泉」であり、多様な人材が活き活きと働くことが、組織の活性化や新たな価値創造につながると考えています。お客さまのさまざまなニーズにお応えするべく、多様な視点をビジネスに反映させ、よりよいサービスを提供することを目指しています。

● 女性の活躍推進、次世代育成支援に関する行動計画策定

女性活躍推進法、次世代育成支援対策推進法に則り、新たな計画期間（2018年4月～2020年12月）の行動計画を策定しました。目標達成に向けて、ダイバーシティ視点で経営課題を議論するダイバーシティカウンスル企画、イクボス宣言を推進するイクボスアワード企画等の取り組みを進めています。

<女性の活躍推進に関する行動計画>

目標1.管理的立場の女性比率を2020年12月までに以下の通りとする。

- 1.女性部店長相当職以上（役員含む）＝10％（2018年3月現在6.7％）
- 2.女性次課長相当職以上＝15％（2018年3月現在13.3％）
- 3.女性係長相当職以上＝22％（2018年3月現在17.5％）

目標2.全行的にダイバーシティが推進され、多様な人材が活き活きと働き、お客さまと共に成長する“いい会社”になっている。

<次世代育成支援に関する行動計画>

目標1.月平均の法定時間外労働時間60時間以上の非管理職行員ゼロ

目標2.イクボス宣言新規100人以上

目標3.産前産後休暇・育児休業取得者への就業継続およびキャリアアップのサポート体制強化

● ダイバーシティ&インクルージョン座談会

2018年6月より、多様な人材が互いを認め合い、受容するインクルージョン（包括・包含）の実現を目指し、情報を共有するダイバーシティ&インクルージョン座談会をスタートしました。テーマを月ごとに設定し、行員が集い活発にコミュニケーションする場となっています。2018年6月に開催した手話をテーマにした座談会では、当行の聴覚障がい者が講師となり、基本手話や自身の名前を伝える手話学習を行いました。この座談会を通じて、口の動きや表情も使ってコミュニケーションすることの大切さを学びました。2018年7月に開催したLGBTをテーマにした座談会では、外部よりLGBT当事者をお招きしました。当事者が身近にいることを意識せずに、無意識に傷つけるような言動をしていないか、当事者はどんなサポートを必要としているか、カミングアウトしやすい組織とはどうあるべきか、率直に意見交換しました。



『手話勉強会』
世界共通I LOVE YOU手話で記念撮影

